レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）　様式３

ﾚﾋﾞｭｰ項目（事業名）	関係団体等との連携による農福連携の充実（障害福祉事業所農業参入推進モデル事業）	部（局）	福祉部
		所管課	ユニバーサル推進課
		担当班	障害者就労支援班
		連絡先	078-362-3261

開始年度	令和2年度	終了年度	令和5年度	関連計画等	第２期ひょうご障害者福祉計画
事業区分	☑ 国補助事業　□ 県単独事業				
実施方法	□ 直執行　□ 委託　☑ 補助　□ その他（　）			実施主体等	県、兵庫セルプセンター

事業目的	障害者の農業現場での就労を推進するために県内９圏域でモデル事業を実施することで農業に取組む障害福祉事業所を増やし、障害者が基礎的な農業技術を訓練・習得する場や機会を広げるなど、裾野を拡大していく。
事業概要	・各圏域ごとに支援協議会(構成：行政、農業者、地域団体等）を設置し、障害福祉サービス事業者が協議会の支援や専門家のアドバイスを受けて農作物の生産活動を行うモデル事業を実施 ・農産物の生産活動に取り組んでいる事業所を対象に、工賃等向上に向けて農機具等の導入を支援
業務フロー	県 → 委託先(モデル事業実施) 県 → 補助金交付(農機具等導入事業実施)
R5レビュー時の外部委員会意見	・本事業により農業に取組んでいる障害福祉事業所のランニングコスト等の現状を分析した上で、今後の支援の方向性を検討すべき。 ・県下ですでに農業に取組んでいる福祉事業所の好事例や失敗例を抽出し、横展開すべきである。 ・実績のある福祉事業者や農業者等と、これから農業に取組もうとしている事業者のマッチング支援、ネットワークづくりの支援も 継続して取組まれたい。 ・障害者の身体面や精神面にプラスであることを、よりアピールすれば新規に農業へ参入する福祉事業所が増えるのではないか。
改善結果 （改善状況 取組過程）	事業レビューにおける意見を踏まえ、農福連携の好事例や障害者にとってのメリット等の動画を作成し、研修に活用することや農業経営の専門家派遣のメニューを増やすなど農福連携におけるコスト面にも考慮した事業へ組み換えを行った。 農業に取り組む事業所数（累計）も増加傾向（R2:151件→R6：367件）となっている。 ３年間で９圏域実施予定としていが、コロナ禍により事業所選定に影響が出た（遅くなった）ため、翌年に専門家派遣を継続し支援し、４年間で９圏域とした。

事業に要するコスト

区分		５年度決算額	６年度決算額	７年度当初予算額	８年度当初予算額
事業費①		4,434 千円	2,706 千円	3,744 千円	2,644 千円
経費内訳	報酬・賃金				
	委託料	1,824 千円	2,706 千円	3,744 千円	2,644 千円
	補助金・交付金	2,610 千円			
	貸付金				
	その他				
（財源内訳）	(国庫)	(1,479千円)	(822千円)	(1,872千円)	(1,322千円)
	(特定)				
	(起債)				
	(一般財源)	(2,955千円)	(1,884千円)	(1,872千円)	(1,322千円)
予算額② ※精算補正前の予算を記載		5,414 千円	2,725 千円	3,744 千円	2,644 千円
執行率((①/②)×100)		81.9%	99.3%	100.0%	100.0%
人件費③（a＋b＋c）		従事人員 0.1人	従事人員	従事人員	従事人員
		825 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	職員給与費 a	716 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	賞与引当金繰入額 b	59 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	退職手当引当金繰入額 c	50 千円	0 千円	0 千円	0 千円
総コスト(①＋③)		5,259 千円	2,706 千円	3,744 千円	2,644 千円

※令和6年度に事業終了のため、令和6年度以降の数値は組み換え後の事業によるもの。

レビューシート（令和５年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式３

	指標名	区　分	５年度実績	６年度実績	７年度見込	８年度目標	最終目標【年度】
評価指標	成果指標(アウトカム指標①) 障害福祉事業所で、新たに農業に従事する障害者の人数	目　標	15	※令和5年度に事業終了			【年度】
		実績（見込）	15				
		(単位当たりコスト)	(351 千円)				
		達成率（見込）	100.0%				
	成果指標(アウトカム指標②) 農福連携の新規取組件数 （農林水産ビジョン2035の指標）	目　標	40	40	40	40	【年度】
		実績（見込）	40	36	(40)	(40)	
		(単位当たりコスト)	(131 千円)	(75 千円)	(94 千円)	(66 千円)	
		達成率（見込）	100.0%	90.0%	100.0%	100.0%	
	成果指標(アウトカム指標③) 農業専門家の派遣回数 ※事業組み換え後	目　標	－	10	10	10	【年度】
		実績（見込）	－	8	(28)	(10)	
		(単位当たりコスト)	－	(338 千円)	(134 千円)	(264 千円)	
		達成率（見込）	－	80.0%	(280.0%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標①) モデル事業の実施事業所数	目　標	3	※令和5年度に事業終了			【年度】
		実績（見込）	2				
		(単位当たりコスト)	(2,630 千円)				
		達成率（見込）	66.7%				
	活動指標(アウトプット指標②) 農福連携等のセミナーの開催数 ※事業組み換え後	目　標	4	4	4	4	【年度】
		実績（見込）	4	4	(7)	(4)	
		(単位当たりコスト)	(1,315 千円)	(677 千円)	(535 千円)	(661 千円)	
		達成率（見込）	100.0%	100.0%	(175.0%)	(100.0%)	
	活動指標(アウトプット指標③)	目　標					【年度】
		実績（見込）					
		(単位当たりコスト)					
		達成率（見込）					
標	終期設定	有（　　）・				無	
	改善基準						

自己評価	評価の視点	評価	目標に対する達成状況（総合的評価）	
	○有効性（評価指標に対する実績） ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか　など	・普及啓発事業の成果もあって、農福連携に取り組む障害福祉事業所の数も増えてきている。 ・障害者が農業活動に従事することは、身体面や精神面にプラスとなり、一般就労に向けた訓練になっている。	B：ほぼ満足のいく実施状況	・普及啓発事業の成果もあり、新たに農福連携に取り組む障害福祉事業所数は概ね目標を達成している。 ・事業の実施により、障害者の就労の場の拡大や農業技術の習得が期待できる一方で、事業所間や異業種間での情報共有をして連携が取れるネットワークづくりが課題である。
	○効率性（最小のコストで最大の効果） ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか　など	・各圏域でモデル事業を実施した後、本格実施は事業所の自主事業となり、効率的な実施体制であると考える。 ・モデル事業の経費は、事業を実施するのに最低限必要となる農機具の整備支援、専門家派遣、地域関係者の支援協議会開催経費であり、適切な費用負担となっている。		

課題・今後の方向性

□ 改善　□ 他事業と統合　☑ その他

説明：農福連携ネットワーク協議会等を通じて優良事例等を積極的に共有するとともに、関係機関、農業者及び事業所との連携を一層強化する。

外部委員会意見

・本事業は、モデル事業の実施や好事例の発信、専門家派遣、セミナー開催等を通じて農福連携の普及・定着を進めており、農福連携に取り組む事業所数の増加など一定の成果が認められる。R5年度レビュー時の指摘事項についても、動画作成やネットワーク形成支援など改善に取り組んでいる点は評価できる。
・一方で、成果指標は取組件数等の量的成果が中心であり、工賃向上や事業継続性など質的成果の把握に課題が残る。また、事業所や農業者間のネットワーク形成については引き続き強化が必要である。
・今後は、優良事例の横展開や関係機関との連携強化を進めるとともに、工賃向上や事業継続率等の指標を活用し、農福連携の質的向上と持続的な発展につなげられたい。
・農福連携の質的向上及び持続的な発展に向け、障害者が基礎的な農業技術を習得し、農機具等を活用しながら一定程度自律的に行動できるようになるまでの訓練プロセスを関係アクターと共有可能なレベルで可視化し、段階に応じた必要なアドバイスのあり方やコストのかけ方等を検討されたい。